

◆ 平成30年度 活動報告シート ◆

団体名：埼玉の森林を考える会

21A-24

代表者：会長 安井敏晃

URL :

1. 活動が必要とされた状況

シカによる森林被害の拡大や大径木の減少等から樹洞性の野生動物の減少が深刻です。県民の森でニホンジカの生息実態調査や樹木保護並びに樹洞性野生動物の生息調査と保護を行い生物多様性に富んだ埼玉の森林や自然の保全を進める必要があります。



夜の野生動物観察会

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- (1) 野鳥・ヤマネ巣箱調査（4月～2月 21名参加）：大型巣箱及びヤマネ巣箱の利用状況調査及び野鳥の生息調査を実施しました。
- (2) 夜の野生動物観察会の実施（8月 11名参加）：（公社）埼玉県農林公社と共催した学習・観察を実施しました。
- (3) 森林におけるシカの影響調査（4月～2月）：ライトセンサス（延べ20名参加）や区画法調査（9名参加）を行いました。
- (4) 情報発信（4月～3月）：シカによる森林被害の実態を知ってもらうためリーフレットを作成し展示館、森林学習室に備えました。また森林学習室に巣箱観察モニター等の機材を設置しました。



シカリーフレット(A4三つ折り表面)

3. 活動の成果

- (1) 野鳥及び巣箱調査：野鳥生息調査では新たに4種が確認でき通年で50種を確認しました。これまでの観察記録は合計70種になりました。大型巣箱10箇所のうち3箇所の巣箱がムササビに利用されたほか、自然にできた樹洞1箇所の利用も確認できました。
60箇所設置したヤマネ用巣箱でヤマネが8箇所、ヒメネズミが22箇所利用したことが、巣箱内に持ち込んだコケ、枯葉、ドングリ及び糞によりわかりました。
- (2) 夜の野生動物観察会の実施：学習室で映像を見ながら県民の森に生息する動物の生態やニホンジカの森林への影響、生息状況などを学習後、車に分乗、実際にムササビとニホンジカを観察してもらい、森林と野生動物の理解を深めてもらいました。
- (3) 区画法調査の実施：ニホンジカ3頭を確認し、調査した面積62.02haにおける生息密度は4.8頭/km²となりました。（昨年は、11頭を確認し17.7頭/km²）
- (4) ライトセンサスの実施：4月から2月まで計10回（1月は降雪のため中止）実施しました。12月の調査では今年最多となる12頭を確認しました。例年と同様、冬季に生息密度が高いことが確認できました。

4. 今後に残された課題

これまでの調査で生息動向が判明してきました。野鳥では森林の変化と生息種の関連、ヤマネについては生息範囲を把握しながら希少動物の保護を検討する必要があります。

ニホンジカについては、森林さらには農業被害が深刻になっており、生息実態を踏まえた防除対策の検討を進める必要があります。

会の活動により知り得た情報を関係機関に提供し、観察会や報告会を通じて多くの県民に森林をはじめとする自然環境の状況と保全の必要性を発信していきたいと思っております。